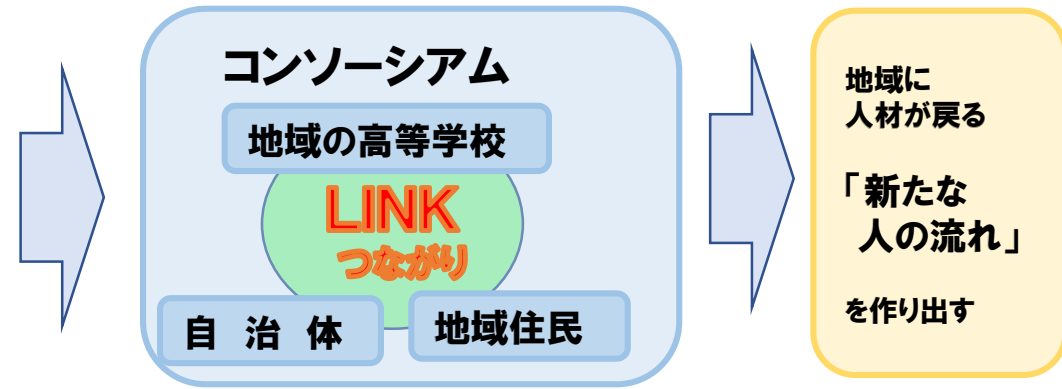


新庄・最上LINKプロジェクト

少子化・人口流出など地域の課題の解決に向けて

地域の未来を切り開く高い志と能力を持った『人財』を育成する

- ①探究心と地域の課題を解決する高い能力を持った人材
- ②郷土に対する誇りを持ち、社会や地域とつながる意欲にあふれる人材
- ③Society5.0に変容する地域社会の中でAIやデータの力を最大限活用し展開して地域を牽引していく人材



山形県教育委員会、山形県最上総合支庁、新庄・最上地域の8市町村、新庄北高校、新庄南高校、新庄神室産業高校、新庄東高校、東北芸術工科大学、最上教育事務所、一般社団法人とらひあ、地元商工会議所でコンソーシアムを構成

《令和2年度の主な目標と取組状況》

- A-a 地域理解プログラム・A-c 地域理解発展研究
／地域をフィールドとした系統的な探究活動
【目標】 成果発表会でルーブリックで生徒の40%が最高評価を受ける。
⇒成果発表会は規模縮小し実施。生徒の56%が最高評価を受ける。
トークフォークダンス、フィールドワークも感染症対策の上実施。
- A-b 「ジモト大学」プロジェクト／最上8市町村・県提供のプログラム
【目標】 本校から参加225名、全体650名⇒本校33名、全体63名
オンライン開催になるも、やむを得ず参加者数減。
「ジモト大学フォーラム」は高校生&地域の大人でオンライン開催。
- A-e 地域系部活動の継続
【目標】 活動を軌道にのせる⇒部員7名。週3回活動。
新庄市の活性化について探究活動。ジモト大学フォーラム等参加。
- D-a 「ふるさと探究」（1年次7月～）の開設
【目標】 昨年度からの計画を実行に移す
⇒計画通り実施。各教科で地域を題材にした授業。外部講師の講義も。
- コロナ禍による影響：以下の2事業以外、規模を縮小し計画に沿って実施。
C-a 「アカデミックインターンシップ」は大幅変更。
D-b 「Myエリア・ラーニング」は実施できず。

《主な成果と課題》

- A-a～c 地域をフィールドとした探究活動
⇒系統的な指導。オンラインのつながりも新たに。
事業の趣旨を繰り返して伝達・周知する必要性あり。
- A-e 地域系部活動の継続
⇒当初予定していた研究発表会がなくなったが、
地域の方について頂き新庄市長へオンライン発表。
- C-a アカデミックインターンシップ
⇒企業説明会や動画説明会は開催できず。
求人票を活用した内容に変更。
- D-a 「ふるさと探究」の開設
⇒テキストの蓄積により次年度からは負担軽減が期待。
普段の授業内容を地域題材に落とし込む展開も検討。
- D-b 「Myエリア・ラーニング」の開設
⇒地域行事が中止となり実行できず。
次年度の円滑な実施が課題。